

2015 大阪サウンドコレクション報告(2015.6.6-6.7)

6月6日から7日まで心齋橋ハートンホテルで開催された、2015 大阪サウンドコレクションに行ってきました。



出展社は下記のとおりで、オーディオ評論家による特別講演も行われましたが、特別講演は席がなくて聴けませんでした。

アキュフェーズ(株)、(株)アーク・ジョイア、(有)アッカ、エソテリック(株)、(株)ステラ、(株)ゼファン、(株)太陽インターナショナル、(株)テクニカル オーディオ デバイセズ ラボラトリーズ、(株)ノア

展示とデモのスタイルは例年どおりで、写真は TAD の試聴が行われた様子とノアによるヴォクサティブのデモの様子です。



太陽インターナショナルでは、アバロンダイヤモンドのスピーカーをドイツからの新顔の T+A のプレイヤーとアンプ群で駆動してデモを行っていましたし、アッカでは、YG アコースティックの Hailey のデモを行っていました。太陽インターナショナルの二日目のデモはヴィヴィッドオーディオの GIYA ですが、羊の角のよう

な消音機を備えた特異な形状のスピーカーながら、音は極めてまともでオーケストラの分離も良くステージ感もあって消音機が有効に動作している印象でした。こういった海外メーカー製品は、いかにもこれがハイエンドと言う音がしていて、クリアで立ち上がりの良い、今どきの音という印象で、特に **GIYA** はクラシックでも幅広く通用するものと感じました。

TAD では、**CE-1** を **TAD** のシステムでデモを行っていましたし、アキュフェーズでも **TAD** の **CE-1** を使って、アキュフェーズのアンプを取り替えて、どのような違いがあるかのデモを行っていました。試聴したアンプの中では **M6200** というモノアンプの駆動能力が目立っていました。エソテリックでは、タンノイの

Kensington と **Cantabery** を **ESOTERIC** のシステムでデモを行っていました。こういった国内製品は、そうじてクラシックを鳴らすと弦もピアノも平凡でこれといった魅力に乏しいのですが、ポップスではそれなりに聴かせるものがあって、非クラシックを指向している印象を受けました。場合によっては、クラシックのピアノの機種がスタンウェイかヤマハか判別しにくかったり、チェンバロが一瞬電子楽器かと錯覚したこともありました。

ステラでは **Janszen** の静電型スピーカーとマグネパンのデモがあり、前者ではエアフォース 2 でアナログの再生が行われ、**Janszen** の静電型スピーカーがクラシック系のソースで非常に好ましい音で鳴っていました。**Janszen** は **Jensen** とは違ったメーカーで、アーサー・A・ジャンセンが 1954 年に創立し、**ESL** スピーカーの嚆矢となる製品を産み出したそうです。今回の **zA2.1J** はアーサーの息子であるディビット・A・ジャンセンが 2005 年に新たに興したメーカーの製品で **ESL** パネルは、20cm 四方ほどのパネル 2 枚を本体中央に垂直配列して 500Hz から 30kHz 近辺までカバーし、低域を受けもつ 18cm アルミコーン型ウーファーは **ESL** パネルの上下に配置され、さらに側面にアンビエンス調整用のトゥイーターを 1 基備えています。



もう一つ興味を引かれたのは、ノアのデモで、ヴォクサティブの他にソナス・ファベールのヴェネーレとオリンピカⅢと AMATI Futura のデモを聴きました。ヴォクサティブはローサーを彷彿とさせる切れ味の良い音でしたが、ソナス・ファベールの3機種はともにクラシック系では良く唄うスピーカーで、最近の非クラシック系のソースもかなりこなせるという印象でした。オリンピカⅢではアナログや DELA からのデジタル音楽ファイルの再生の双方ともに非常にナチュラルな音でした。アナログのフォノイコはブルメスターが使用されており、品位の高い再生パフォーマンスでした。さらにエニグマの静電型ツイーターSopranino をオリンピカⅢに追加し、Sopranino 有無の効果を聴かせるデモもありました。Sopranino を追加すると、オリンピカⅢがさらにナチュラルで深みのある音に変わることがよく分かりました。Sopranino についてはメーカーのサイトなどから得られる情報が下記で確認できます。なお、Sopranino は静電型でありながら、荷電した粒子を固定したフィルムを電極間において振動させるという自己バイアス式で駆動するため電源が不要とのことで、その構造を文末に添付しておきます。

http://www.noahcorporation.com/enigma/201408enigma_release.pdf#search='%E3%82%A8%E3%83%8B%E3%82%B0%E3%83%9E+Sopranino'

<https://www.youtube.com/watch?v=cO6NsTwusUA>



もう一つ Sopranino とおなじような静電型ユニットを使用したヘッドフォンも真空管ヘッドフォンアンプとともに展示されており、これもなかなか良い音がしていました。



試聴室のデモではありませんでしたが、受付のコーナーのテーブルで Buffalo の

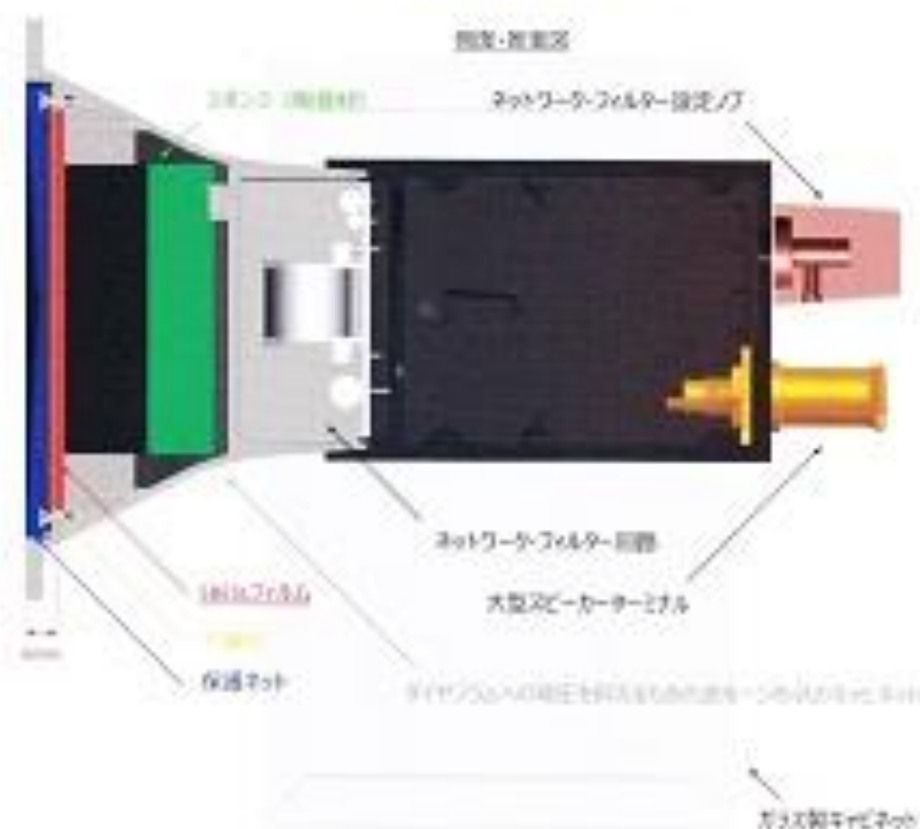
DELA の N1A と N1Z がアキュフェーズの DAC との組み合わせでヘッドフォンで音質が確認でき、ノアのデモともども好印象を受けました。



例年と違うところは、アナログのデモが増え、クラシックの再生も増えており、いっきの大音量で味付けの濃い押しつけがましいデモが減っていたように感じます。また、総じて海外のハイエンドを扱うディーラーのデモの方が、使用する音源の選択も含めて洗練されており、国産メーカーは音楽に関するアプローチの成熟度が足りない印象でした。

SBESL Technology

Sopranino



SBESL フォルム 1180201



SBESL とツイーターユニットの比較

| | SBESL | ツイーターユニット |
|-------|-------------------------------|--------------------|
| 共振帯 | 2.0kHz | 低域 |
| 共振帯幅 | 2.0kHz | 幅広 |
| 共振帯中心 | 1.7kHz | 3.0kHz (コンプレックス) |
| 音質 | セルフバイアス回路 0.6dB 電圧降下許容力 | コンプレックス 電圧による損失 |
| 共振帯幅 | 高-低域帯域 | 中-高域帯域 |